

周産期医療の課題に関する機能的研究

看護学科 助産・母性看護学領域 白井 紀子 講師

Q. どのような研究をされていますか？

A. 社会や北海道地域における周産期分野の問題への取り組み、および貢献を意識した研究を行っています。

分娩施設の集約化などにより、分娩施設がない地域では、対応できる施設までの移動が長距離であることにより妊産婦が院外や病院到着前に分娩に至るリスクが依然として高く、救急車内での分娩の症例も発生しています。救急隊員は、分娩についての知識・技術の有無にかかわらず、あらゆる状況に対応せざるを得ない現状があります。全ての産婦が、救急隊員による適切な分娩経過の観察、分娩の補助を受けながら医療機関の専門職に引き継がれることを実現するために、助産・母性看護学領域の取り組みである「消防学校の周産期演習」に関する研究、これをさらに発展させた「病院前周産期症例の安全な分娩に繋がる職種間連携システムの機能向上にむけた研究」を行っています。これまでの研究では、病院前周産期症例の搬送過程における救急隊員の困難の様相を分析し、病院前周産期症例の安全な分娩・搬送の実現には、搬送中の困難に対して、医療職とのタイムリーな相談、協働を可能にする体制が重要となることを明らかにしました。現在は、搬送に係る救急隊員と医療職との協働について、具体的な設計および実装の視点でさらに研究を進めています。

また、新型コロナウイルス感染症発生時には、運営に苦慮する臨床現場に研究機関として貢献することを考え、産科病棟の危機管理に関する研究「北海道の産科病棟の看護管理者が新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対して行った危機管理の実態」に取り組みました。北海道内の産科病棟の危機の発生が42.3%に認められたこと、新興感染症による危機への対応には、危機の察知を早めることの重要性等を明らかにしました。

Q. これまでどのような研究をされてきましたか？

A. 臨床でのケア経験から、家族の育児や新たな生活への不適應による問題が増加していることを認識し、家族機能に着目した研究を行いました。出産後1カ月の家族の生活では「親子や夫婦関係」という家族内部の関係性の充足度の低下が家族機能にも影響することを明らかにし、この結果を臨床に還元し出産後の保健指導等に活かしてきました。現在も子育てに関する家族支援は重要な視点であり、出産前後の家族の変化について授業で紹介しています。また、助産ケアの質向上に寄与するため、「妊婦の非妊時体型・体重増加と切迫早産・低出生体重児の関係」「24時間母子同室と母乳育児の関係」「妊婦の食意識とマイナートラブルとの関連」「医療ニーズに対する高度看護実践家としての専門看護師(CNS)の活動と評価」等の研究に取り組みました。

Q. 将来の展望をお聞かせください。

A. 周産期の臨床現場、出産育児に関連する様々な問題にコミットした研究を行い、情報発信を行うとともに、ネットワークやシステムの構築、人材育成に貢献していきたいと考えています。

もう少し知りたい！と思った方はこちらへ

- ・助産・母性看護学領域 URL

➡ https://web.sapmed.ac.jp/jp/school/health/course/ns/ns_bosei.html

- ・専攻科助産学専攻 URL

➡ https://web.sapmed.ac.jp/jp/school/midwifery/a_mdwf/index.html

- ・大学院保健医療学研究科看護学専攻女性健康看護学 URL

➡ https://web.sapmed.ac.jp/jp/school/graduate/health/g_ns/ahfmc00000013wl.html